

事業計画のとりまとめイメージ

国道15号・品川駅西口駅前広場 事業計画【構成（案）】

1 基本計画の背景

◆事業背景

- 『品川駅・田町駅周辺まちづくりガイドライン2014(東京都)』
⇒今後の日本の成長を牽引する国際交流拠点・品川

◆品川駅西口の概要

- リニア中央新幹線、羽田空港の国際化
- 品川新駅、京急線地平化、高輪3・4丁目地区再開発 等の進展



2 品川駅西口の課題と整備方針

◆品川駅西口の現状と課題

- 狭小な駅前広場で錯綜する荷捌き交通
- タクシー待ち行列 ○バス待ち客による歩道閉塞
- バリアフリー化がされていない横断施設

◆国道15号・品川駅西口駅前広場整備の整備方針

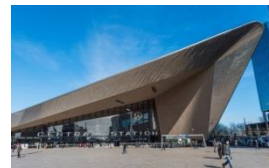
- 道路上空を活用し、日本の顔となる『世界の人々が集い交わる未来型の駅前空間』の創造
- 民間事業者等の知見を広く取り入れ、官民連携で計画の具体化



3 目指すべき方向性

◆4つの基本コンセプト

- ①新しい交通拠点に
- ②都市活動を支える基盤に
- ③新しい「日本の顔」に
- ④首都圏の防災拠点に



◆品川駅西口が備えたい機能

- ①交通機能
- ②交流機能
- ③にぎわい機能
- ④サービス機能
- ⑤防災機能
- ⑥景観機能

◆周辺地域や広域的な連携の考え方

- 周辺地域との連携
-品川新駅・北口及び港南口方面、北品川方面、高輪3・4丁目再開発地域等との連携
- 広域的な連携
-東京・横浜・大阪・名古屋等、臨海部、羽田・成田空港との連携

4 ゾーニングの考え方

◆ゾーニングの考え方

1. 次世代の交通ターミナル
2. 開発計画と連携した複合（交通・防災）ターミナル
3. 人々が集う賑わい広場
4. シンボリックなセンターコア
5. 利便性の高い路線バス乗降場
6. 北品川方面への溜まり空間
7. 新駅方面への歩行空間

5 道路上空の活用・動線計画の考え方

◆ゾーニングの考え方

- 国道上空を立体的に活用し、交通機能・賑わい機能を配置
- 北側デッキ部に次世代型交通ターミナルを配置
- 南側デッキ部に賑わい広場を配置 等

◆動線計画の考え方

- 国道上空デッキを中心とした歩行者ネットワーク
- 周辺エリアとのシームレスな移動を確保
- モビリティポート（ターミナル、デポ、プール）を適切に配置

6 災害時における国際協力拠点としての考え方

◆国内の大規模災害時の対応

- 品川駅西口の特徴
-羽田空港からのアクセス性
-MICE・宿泊施設の集積
- 国際協力支援の受入拠点
-賑わい広場、複合ターミナル、再開発エリアでの対応



7 構造形式の考え方

◆人工地盤構造の設計と荷重条件

- 死荷重（人工地盤、次世代型交通ターミナル 等）
- 活荷重（歩行者、モビリティ、緊急車両）
- その他荷重

◆次世代型交通ターミナルの空間配置

8 交通広場・賑わい広場の整備の考え方

◆交通広場、センターコア、次世代型交通ターミナルの整備の進め方

◆賑わい広場の整備の進め方

9 今後の進め方

◆段階的な整備による計画の実現

◆スケジュール

- 周辺開発事業者、行政関係者が一体となった事業推進